

腫瘍マーカー

	J-ド No.	項目名 (別名・略称)	検査方法 基準範囲	検体名 必要量	容器	保存	所要 日数	採取・提出・条件	備考
腫 瘍 マ ー カ ー	79336	CEA	CLEIA法 5.0ng/mL以下	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79337	CA19-9	CLEIA法 37.0 U/mL以下	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79338	高感度PSA	CLEIA法 4.000 ng/mL以下	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		関連項目 PSA-ACT PSA F/T 比

項目名	臨床的意義
CEA	<p>癌胎児性抗原（CEA）はヒト結腸癌組織抽出液中に発見された糖蛋白質で、同じ抗原が消化器癌組織だけでなく、胎児消化器中にも存在することからこの名が名付けられ、消化器癌のマーカーとして広く利用されている。</p> <p>CEAは大腸癌をはじめ乳癌、肺癌等の多種類の癌で高い陽性率を示す。このため、癌の補助診断、治療効果判定に有用である。</p>
CA19-9	<p>CA19-9は膵臓癌で約80%、胆管・胆嚢癌で約70%と高い陽性率を示す。</p> <p>しかし早期癌での陽性率は低く、スクリーニング検査には不適である。</p> <p>現在は膵臓・胆管・胆嚢癌の補助的診断および治療効果判定のためのモニタリングマーカーとして利用されている。</p>
高感度PSA	<p>PSAは前立腺の腺上皮細胞で特異的に産生されるタンパクで、前立腺腫瘍などで腺上皮細胞が障害されると血中に逸脱するため、血中PSA測定は前立腺癌の診断と経過観察および治療効果の判定に有用である。</p> <p>また、前立腺癌の早期発見のスクリーニング検査としても極めて有用である。</p>

内 分 泌

	J-卜 No.	項目名 (別名・略称)	検査方法 基準範囲	検体名 必要量	容器	保存	所要 日数	採取・提出・条件	備考
免疫学 的 検 査 (内 分 泌)	79333	TSH	CLEIA法 0.541~4.261 μIU/mL	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79334	FT ₃	CLEIA法 2.39~4.06 pg/mL	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79335	FT ₄	CLEIA法 0.76~1.65 ng/dL	血清 0.5mL	a	冷蔵	1日		
	79332	BNP	CLEIA法 18.4 pg/mL以下	血漿 1.0mL	B-7	冷蔵	1日		

項目名	臨床的意義
TSH	<p>TSHの合成及び分泌はTRHによって刺激され、甲状腺ホルモンによって分泌を減少させる。 (ネガティブフィードバック機構)</p> <p>TSH血中濃度は、甲状腺機能の変化を鋭敏に反映するため、甲状腺疾患の診断として重要な役割を果たす。フィードバック機構の異常、甲状腺疾患と下垂体～視床下部系の異常や、甲状腺ホルモン不応症との鑑別に有用である。</p>
FT ₃	<p>トリヨードサイロニン (T₃) は、血中ではその大部分がサイロキシン結合蛋白 (TBP) に結合しており、遊離トリヨードサイロニン (FT₃) は0.3%にすぎない。しかしこの0.3%のFT₃のみが細胞内に移行してホルモンとして作用する。</p> <p>さらに視床下部～下垂体～甲状腺系機能調節機構により、FT₃は一定の値に維持されているため、FT₃の測定は甲状腺機能およびT₄代謝の鋭敏な指標となる。またFT₃はTBPに影響されず代謝状態を反映するため、甲状腺疾患の診断と治療効果の観察に有用である。</p>
FT ₄	<p>サイロキシン (T₄) は、血中ではその大部分がサイロキシン結合蛋白 (TBP) に結合しており、遊離サイロキシン (FT₄) は0.03%にすぎない。</p> <p>FT₄は甲状腺ホルモン作用を有するものの活性は弱く、実際に甲状腺ホルモンとして作用するものはFT₃で、FT₄はFT₃の前駆体の役割が大きい。しかしFT₄は組織でT₃に転換され代謝亢進などの作用を発現する。血中FT₄は甲状腺機能の状態を直接的に示す指標となるため、種々の甲状腺疾患の診断と治療効果の観察に有用である。</p>
BNP	<p>ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) は主に心室から分泌されるホルモンで、心室負荷や心筋肥大、心筋虚血により分泌が亢進する。</p> <p>健常人の血中BNPは極めて低いが、慢性および急性心不全患者ではその重症度に応じて著名に増加することから、心不全の病態把握に有用である。</p>